

# 2025年 大阪・関西万博政府出展事業検討状況について

2023年1月

経済産業省

- 1. 万博・日本館の検討状況
- 2. 建築に関する検討状況
- 3. 展示に関する検討状況
- 4. 広報・バーチャルに関する検討状況
- 5. 若年層への訴求
- 6. その他検討状況
- 7. 今後のスケジュール

### 1-1. 大阪・関西万博の状況

(1)テーマ・コンセプト

テーマ : **いのち輝く未来社会のデザイン** 

コンセプト: 未来社会の実験場

(2)開催場所: 夢洲 (大阪市臨海部)

(3)開催期間:

2025年4月13日 ~ 10月13日 (184日間)



### 名称

◆日本語(正式): 2025年日本国際博覧会

同(略称):大阪·関西万博

### これまでの取組・今後のスケジュール

【2016年】12月22日 : 万博誘致の関係省庁連絡会議の発足

**【2017年】** 4月7日 : 万博誘致の立候補(閣議了解)

【2018年】11月23日 : 誘致決定

【2019年】12月20日 : 登録申請書の提出に係る閣議決定

【2020年】

**EXPO** 2025

9月16日 : 万博特措法施行

(国際博覧会担当大臣の任命、内閣に推進本部設置)

12月1日 : BIE総会 (開催計画承認、参加招請の開始)

12月21日 : 基本方針の閣議決定

【2021年】

8月27日 : インフラ整備計画の決定(万博推進本部決定)

12月24日 : アクションプランの決定 (万博推進本部決定)

10月~2022年3月: ドバイ万博

【2022年】

6月10日 : アクションプランVer.2の決定 (万博推進本部決定)

7月18日 : 1000日前イベント (東京・大阪で開催)

12月20日: アクションプランVer. 3 の決定 (万博推進本部決定)

【2023年】

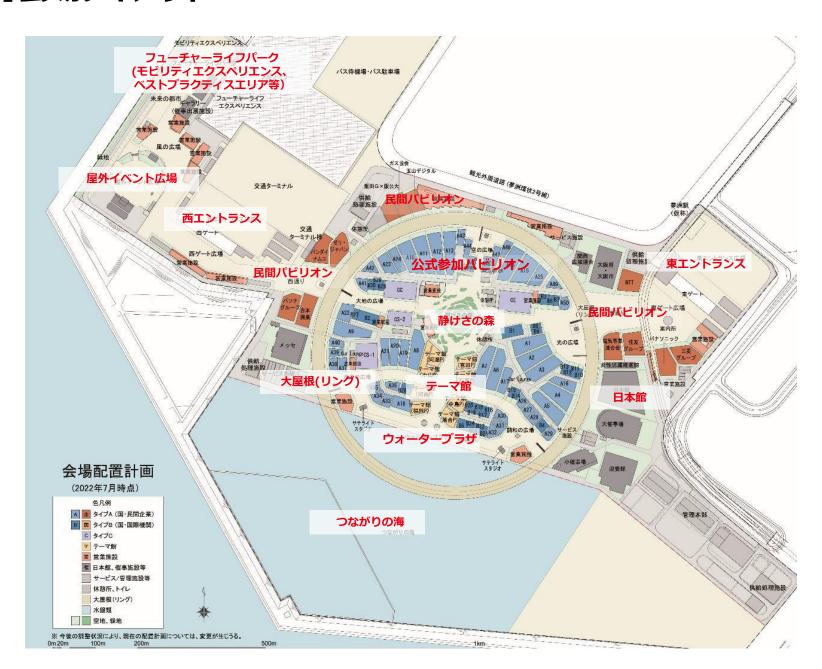
4月(P): 起工式・会場内パビリオン建築工事開始

年内(P):前売り入場券販売開始

### 【参考】大阪・関西万博会場の周辺地図



### 【参考】会場レイアウト



### 【参考】2025年大阪・関西万博のパビリオン展示について

パビリオン展示は、「①公式参加者パビリオン」、「②テーマ事業パビリオン」、「③日本政府館」、「④自治体館」、「⑤企業パビリオン」の5種類。

### ① 公式参加パビリオン

✓ 万博に参加する各国政府・国際機関が企画するパビリオン

### ② テーマ事業パビリオン

- ✓ 8人のテーマプロデューサーが企画するパビリオン
- ✓ 「いのち」に関連するテーマをそれぞれ設定し、企画

### ③ 日本政府館

- ✓ 日本政府(経産省)が企画するパビリオン
- ✓ 「いのちと、いのちの、あいだに」のテーマの下、企画を検討中

### 4 自治体館

- ✓ 自治体等が企画するパビリオン
- ✓ 大阪府・市が連携し、「大阪館」を出展予定

### ⑤ 企業パビリオン

- ✓ 民間企業等が自由に企画するパビリオン
- ✓ 万博の「華」となるパビリオン

### 《各パビリオンの配置案》



### 【参考】各国への参加招請活動

目標:150か国、25国際機関(愛知博は、121か国、4国際機関が参加)

現状: 142の国·地域、8国際機関 (2022年10月25日時点公表ベース)

◆ 主要国(G7)はすべて参加表明済み。

◆ 目標達成に向けて、今後ともあらゆる機会を捉えて政府一丸となって 精力的に進めていく必要。

(参考) 愛知万博(2005年3月25日~9月25日) との参加表明状況の比較。

最終的な参加国等:121か国4国際機関

- 開幕3年前 24か国
- ▶ 開幕2年前 70か国
- > 開幕1年前 119か国

### 1-2. 日本館の検討状況

 2022年度は、「日本館基本計画」(2022年3月31日策定。以下「基本計画」)に 基づき、日本館に係る**建築、展示及び広報等を具体化**。

#### コアとなるコンテンツの設計 2022年度~

- ✓ 日本館のコンセプトの 発信に求心力をもたせる ことを目指し、展示体験 の具現化を進める。
- ✓ キーメッセージやキービジュアル等の開発を 進める。

#### コミュニケーション施策実施 2023年度~

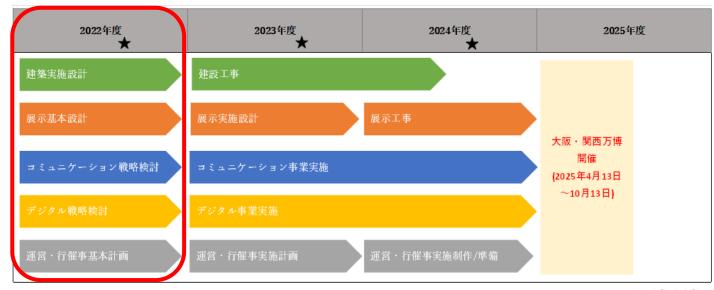
- ✓ 会期前から、デジタル 空間も活用しつつ、 日本館のコンセプトの 浸透を図る。
- 関心層の増加を図ると ともに、日本館コンセプト の理解を促進。

#### 日本館における体験 会期中

✓ 会場における展示体験に加え、来場者(デジタル空間へのアクセスを含む)に向け、多様な催事・デジタルコンテンツを展開し、幅広い層の関心を喚起する。

#### レガシー 会期後

- ✓ 日本館にかかわる体験 で得た気付きを自身の 言葉で言語化する機会 を設けることを検討。
- ✓ コンテンツの一部をレガシー として残せるよう検討。



6

### 1-3. 基本計画 (2022年3月31日策定) のポイント

### ● 目指す来場者体験

テーマ: いのちと、いのちの、あいだに - Between Lives -

- ・ 来場者自らが、他のいのちとのつながりや循環の中で生かされている存在であり、地球といういのちの束の 一部であることに気づく機会を提供。
- ・地球で起こっている持続可能性の問題を「自分たちのこと」として認識し、「炭素中立型の経済社会」や 「循環型社会」といった未来社会の実現に向けたアクションを促す。
- 展示のコンセプト
- (1)循環(いのちのつながり)の体験
- ○<u>日本館において一つの循環を創出し、象徴的な</u> 来場者体験を提供。
- ・二酸化炭素や廃棄物を循環に戻していく技術・仕組みを実装。 その結果、生み出されたものを来場者が食する等の体験を提供。

|例:万博会場から出される生ゴミを利用したバイオガス発電、

CO2リサイクル技術の活用、

バイオガス発電による電力を利用した藻類の栽培、

藻類等を加工し、来場者が食する等の機会を提供

#### (効果)

- ✓ 二酸化炭素や廃棄物にも新たな活用方法・役割があるという 認識の変化。
- ✓ 発展的に循環のサイクルをつないでいくことで持続可能で豊かな 未来社会を構築していく可能性への気づき。

### (2)循環とともにある社会の実現に向けた要素の 展示体験

- ○日本文化や技術、日本的な発想を手がかりに、以下 の3つの要素に着目した展示体験を提供。
- ①循環を見据えたものづくり

例:長く使い次に再生しやすく作るための考え方・技術の提示 (着物を最後まで使い切る工夫等)。

②はかなく小さな生き物

例:石油代替等の分野で期待される微生物の活用の提示 (発酵文化、微生物の活動の可視化等)。

③次のいのちへのリレー

例:日本文化の発展・継承(式年遷宮、伝統芸能等)を振り返りつつ、 私たちがいかに知恵や社会を発展させ次世代に伝えていくかの問いかけ。

(効果)

✓ 持続可能で豊かな未来に向けた気づきを得た来場者が、 それぞれに具体的な行動を起こしていく。

### 2-1. 建築に関する検討状況

### 【検討会議におけるご意見】

- ドバイ博に行った人の反応を見ていると、「楽しさ」に焦点を置いた反応が多い。外観は重要であり、**外から見て 面白い、行きたいと思わせるのも1つ大事な要素**。
- 万博終了後の利用を考える必要があると思う。開催期間中にのみ「起承転結」があるのではない。
- 日本館を見た人に自分の国でも真似したいと思ってもらえるような形で日本館を作っていく過程のチャレンジを紹介できたらよいと思う。作っていく過程をシステム輸出できるような形で、日本館のチャレンジ自体を世界に発信する場になれば。

### 【基本計画】

- (カーボンリサイクル技術を活用したプロダクトの実装、万博会場から出される生ゴミを利用したバイオガス発電の 実装、バイオガス発電を利用した藻類の栽培、日本館から生み出された素材を加工し来場者自身が楽しめる 機会の提供などを前提とした建築とし、) 展示だけではなく建設と一体となった表現とすることで、一貫した 来館者体験を創出する。
- SDGsおよびカーボンニュートラルの達成や資源循環の実現の観点から、日本館では3R+Renewableを 積極的に推進する。また、博覧会協会の建築ガイドライン・調達コードに準拠するなど、環境負荷低減やユニ バーサルデザインの実現を目指す。建築材料にはCLT等を活用し、万博終了後はこれを再利用につなげていく。

ユニバーサルデザインワークショップにおけるご意見を反映しつつ、建築・展示一体となったパビリオンを設計。 日本館独自のリユースの取り組みとして、CLT(Cross Laminated Timber:直交集成板)の再利用を予定。 万博会場全体の方針を踏まえ、更なる推進を検討。

8

### 2-2. 日本館建築概要

- 「次のいのちへのリレー」という日本館コンセプトを踏まえ、「いのちのリレー」「いのちのサイクル」を 体現する円環状のパビリオンを設計。
- 建物や展示室の輪郭を形成する内外壁を分割し、開くことで"外部と内部"の境界を 敢えて曖昧にすることにより、建築と展示が融合した建物としている。



#### 建物概要

場所:大阪府大阪市此花区夢洲敷地面積:12,950㎡

建物:地上3階

鉄骨造+木造(CLT活用) 総建物面積:約11,360㎡

#### 建築スケジュール

令和4年12月 実施設計 令和5年1月18日 検討会議 (その後、速やかに)公告 令和5年夏頃 建築工事 令和7年春 完成・運営準備



### 2-3. 資源循環に関する検討状況

- 博覧会協会は、万博全体のサーキュラーエコノミーの実現、来場者の行動変容に向けた取組など を議論する場として、資源循環検討会を設置。また、大屋根リングの解体後リユースを検討中。
- 日本館においては、**内外壁に使用するCLT**(Cross Laminated Timber:直交集成板)を、 会期後、公募により選定された地方公共団体や事業者が再利用するスキームを構築。

### 日本館におけるCLT活用

- ①関係省庁(内閣官房、林野庁、国土交通省及び環境省)が、公募により「CLT活用推進パートナー」を選定。
- ②選定された推進パートナーは、日本館の整備にあたり、施設管理者(経済産業省)等と調整・合意した条件のもと、万博開催期間中に施設管理者に無償でJAS規格に適合したCLTパネルを貸与。
- ③万博開催期間の終了後、解体されて推進パートナーに 返還されたパネルは、推進パートナーが公募により選定 した「CLT再利用パートナー」が再利用を進める。



出典:内閣官房HP

### 万博会場全体の取組

### ①資源循環勉強会の開催

持続可能な万博の準備、運営の実現に向けた施策として、2022年4月に公表した、改訂版 < EXPO 2025 グリーンビジョン> に記載している、会場内の廃棄物排出抑制、リサイクルの仕組みの構築などの実現を具体化、実行していくために、資源循環勉強会を開催。

### ②大阪・関西万博における建材リユース

サーキュラーエコノミーの実現を目指すべく、万博会場の 「大屋根リング」については、万博閉会後解体し、地方公共団体・ 民間事業者等へ資材提供を検討中。





### 2-4. ユニバーサルデザインについて

● 万博全体に係る「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン」等に準拠し ユニバーサルデザインを実現するため、設計段階において<u>多様な主体から幅広く意見</u> を伺うユニバーサルデザインワークショップを実施。いただいた意見を、日本館の 建築設計に反映。

### ● ユニバーサルデザインワークショップの概要

### ■開催概要

2022年6月から12月にかけて、ワークショップ(全6回)を実施。

#### ■主な反映状況

#### ①通路計画

- ・階段等の段差をなくしてスロープにし、傾斜角度も概ね1/20に設定。
- ・全員が同じ通路を進むことで、分け隔てなく共に未来を目指す姿を想起。

#### ②トイレ計画

- ・トイレを施設内に複数箇所設置し、オストメイト等の機能分散も実施。
- ・シスジェンダー(男女別)トイレだけでなく、ジェンダーレストイレも配置。
- ・ファミリールームやカームダウンルームも設置し、あらゆる層に対応。

#### ③誘導計画

- ・手摺りに加えて、白杖を沿わすことが出来る案内レールも設置。
- ・テクノロジー活用をした新しい誘導方法についても意見交換。 今後の検証状況等に応じて、導入に向けた検討を行う予定。

### ■ワークショップ委員

委員長 三星昭宏 近畿大学名誉教授

大竹浩司 公益財団法人大阪聴力障害者協会

尾上浩二 DPI 日本会議副議長

糟谷佐紀 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授

神吉優美 奈良県立大学地域創造学部 教授

小尾隆一 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会常務理事

塩安九十九、国交省バリアフリー近畿分科会委員

城本徹夫 大阪府視覚障害者協会

神徳佳子 特定非営利活動法人WACわかやま副理事長

鈴木千春 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議 運営員

高橋儀平 東洋大学名誉教授

西村秀樹 滋賀県視覚障害者福祉協会

柳原崇男 近畿大学理工学部社会環境工学科准教授

吉川ひとみ アクセス関西ネットワーク

六條友聡 NPO法人ちゅうぶ代表理事

渡部安世 特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会 バリアフリー部長

### 3-1. 展示に関する検討状況

### 【検討会議におけるご意見】

- SDGs を企業や大きな施設の責任と理解している人は多いが、1人1人の行動がいかに地球環境に影響を与えるかということを、体験出来たらよい。日本には「もったいない」という文化があり、国際的に見ても独自の感覚、これを活かしたらよい。参加者全員が理解しやすく、皆の心に残るようなものにすべき。
- 日本文化、日本食や茶道などは外国人からすると興味深いので、テーマ以外でも日本文化を体験できる コーナーなどを作れば、より付加価値の高いものになるのでは。
- 日本アニメは世界でも認められている。展示の表現も、アニメを応用できるのではないか。

### 【基本計画】

- 自分たちが大きな地球の中で生きていることに気づき、他のいのちと共創しながら大きな循環を生み出す大切さを学ぶ。こうした一連の体験を経て、SDGsに代表される社会課題を自分たちのこととして咀嚼し、未来社会のつくり手としての行動変容を促す。
- 日本館は、人間だけが特別ないのちではなく、人間とそれ以外の生命や、無機物まで含め「いのち」と捉える 考え方をもとに、「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマとして定めた。
- 日本には着物の生地を最後まで使い切る工夫など、美しさや機能性を実現しながら、ものを長く使い別の用途に再生するための考え方や技術が息づいてきた。このような日本文化のあり方を示しつつ、ものを大切に使い、安易に捨てない、使い終わったら次のものにつないでいくことの重要性を訴える。

各コンセプトを具体的な展示に落とし込み。循環社会へのヒントが日本文化に内在していたことを国内外に発信。来場者が自分たちのこととして社会課題を捉えられるようわかりやすく提示し、行動変容を行う契機とする。

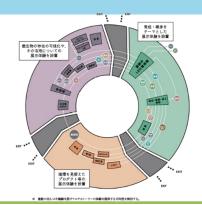
### 3-2. 展示に関する検討について

● 基本計画に基づき、展示ストーリーや実現可能性について検討。 3つの展示コンセプトを具体化。デザイン性、技術的な実現可能性、体験を含めた会場運用 などの各要素を踏まえ、訴求力の高い展示コンテンツに落とし込み。

### ■全体コンセプト

人に限らず、モノや動植物、有機物や無機物も、社会全体や地球自体も共通して、 ひとつの役割を終えたとき、何かしらが受け継がれ、次につないでいくことによって新たな 役割を獲得している継承プロセスを持っている。

その過程を意識することで、いのち同士の「関連性」や「繋がり」を感じ、来場者自身がいのちのつながりや循環の中で生かされていることを再発見する機会を提供する。



#### 循環を見据えたものづくり



### <u>「分解しやすく・壊れやすく・弱</u> く・治りやすいように」作ることで 調和する

「分解しやすく作られる」ものづくりを実際に現場体験することで、日本に息づく循環を見据えたものづくりを体感。自然と調和し共生してきた日本の精神・文化に、循環型社会へのヒントが秘められていることを発信。

#### 【展示例】

- ・壊れやすく作るものづくりの実演
- ・循環のヒントとなる日本文化

#### はかなく小さな生き物



## <u>目に見えないもの、あるいは微細すぎて普段気にとめないような小さな存在たちによる働き</u>

万博会場から出された生ゴミが、微生物の働きにより分解され、バイオガス発電により、水や電気といったエネルギーに変換されていく姿を、実際に稼働する設備を見ることにより体感する。

#### 【展示例】

- ・実稼働するバイオガスプラント
- ・再生する水

### 次のいのちへのリレー



<u>持続可能な社会を受け継いでいくた</u> <u>めに、いのちのリレーを支える技術</u>

日本が誇るカーボンリサイクル技術や多様な 可能性を持つ藻類が媒体となり、二酸化炭素 や水、電気が次のいのちへとつながれていく様を 象徴的な展示で表現。

#### 【展示例】

- ・未来を予感させるCR技術
- ・藻類栽培と再生されたいのちを 体内に取り込む機会の提供

### 3-3. 展示・協賛の選定プロセスについて(案)

等

- 展示・協賛参画企業の選定にあたっては、透明性・公平性が一層求められている状況。
- このため、日本館における参画事業者の選定に当たっては、公募要領及び審査項目に 従い、第三者機関が審査を行い決定するプロセスを検討。

### 【第三者機関(案)】

- ①公募・第三者委員会による審査を行うことで、 事業者決定プロセスの透明性の担保
- ②審査項目採点形式により、公平な選定を確保

### 【委員構成案】

以下構成を基本とし、公募内容に知見のある委員を 各回3名程度選出。必要に応じ、事務局から別途 知見者にヒアリングを行い審査委員会に情報提供。

- ○日本館の展示内容への知見者
- 過去博等大型国際イベント知見者
- 法律家/学識経験者

### 【選定プロセス】

コンセプト 決定 総合プロデューサーによる展示コンセプトの 決定

公募

- 経産省/博覧会協会による公募要領の作成
- 公募(四半期に一度程度(検討中))

審杳

- 審査委員による採点
- 展示管理委員会における意思決定

• 審査概要及び決定企業の公表

公表

• 展示調整、協賛契約

### 4-1. 広報・バーチャルに関する検討状況

### 【昨年度検討会議におけるご意見】

- オンラインであっても、多くの人が強く関心を持てるような新たな工夫が必要。Society 5.0というデジタル化が進んだ社会を見せる場であってほしい。
- ▶ メタバースのアプリケーションを作って、他のパビリオンと繋がって、将来を経験させるということも、遊びつつ 技術の要素があって良い。また、外国人、特にミレニアル世代は、日本 = テクノロジーという発想がある。将来の 技術というホットトピックスも要素として入れたら良い。
- 万博はリアルのイベントの最たるものなので、リアルに来てもらう価値、その工夫をどう考えるかが2025年においても非常に重要。1つ1つの展示を単体で見て面白いだけではなく、他のパビリオンとの繋がりなど、万博というイベント自体を巡り歩くことそのものが楽しめる設計にするなどは考えられる。



### 【基本計画】

- 日本館のコンセプトの発信に求心力を持たせることを目指し、キーメッセージやキービジュアル等の開発を進める。館内サイネージや各種コミュニケーション媒体における柔軟な運用が可能なビジュアル・システムを開発する。生物のように変化し続ける循環型グラフィックを持ち、縮尺や外形の変化、面的なパターン展開などに対応出来る汎用性を持つビジュアル・システムを検討する。
- 来場者へのコンセプトの理解促進・メッセージ発信を目的に、開催期間全体を通じて様々な催事・デジタルコンテンツを展開し、幅広い層の関心を喚起する。リアル日本館と連動したデジタルにおける体験を通じて、リアル日本館へ来場できない人を含む多くの人に向けた空間や時間の制約を超えたパビリオン体験の提供を図る。

### 4-2. 広報に関する検討状況

- 会期終了までを4つのフェーズに分け、ターゲットを意識して広報を推進。
- 来年度初期に、**日本館への関心喚起に向けて、日本館PR専用サイトを立ち上げ予定**。 立ち上げ時のコンテンツは、①コピー、②キービジュアル、③日本館の概要、④協賛問い合わせ 窓口等の関連情報を想定。

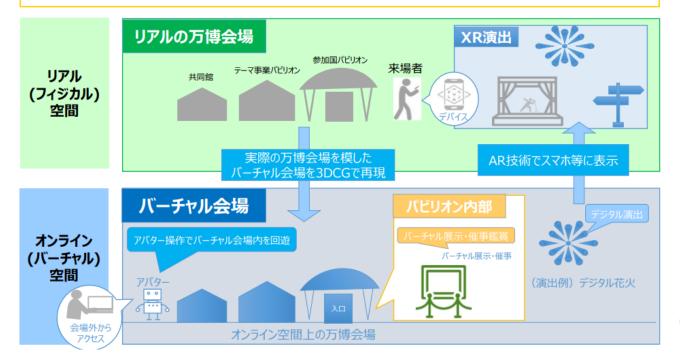


### 4-3. バーチャルに関する検討状況

- バーチャルについては、オンライン空間上に夢洲会場を3DCGで再現したバーチャル会場を用意し、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)等のバーチャル技術を活用したリアルとバーチャルが相互に連動する様々な取り組みを展開予定。
- 協会の示すガイドライン等に従い、日本館バーチャル施策の検討を推進していく。

#### 大阪・関西万博バーチャル会場の概要

- ✓ リアル万博会場のデジタルツインとなるバーチャル会場を構築
- ✓ パビリオン内部のバーチャル展示物等は、参加国等が独自に用意する
- ✓ ARと連携したデジタル演出等、バーチャル万博ならではの体験も提供



出典:NTT報道発表資料

### 5. 若年層への訴求

### 【検討会議におけるご意見】

- 過去博でも若い世代のクリエイターやアーティストが生まれてきた。若い世代の登用については、様々な世代の 人の融合の中で、若い才能をエンカレッジするという形がよい。
- 「次世代」「多様性」という言葉が入っているが、**あらゆる年代の人々にわくわくしてもらい楽しんでもらう事が 重要。特に万博チルドレンの方々に参加してほしい**。
- 万博チルドレンを生みたいのであれば、日本館のメッセージを、子どもたちのわくわく感やクリエイティビティに ヒットし、その子どもたちがその後の人生を考えるきっかけとなるような体験として伝えることが重要。
- 万博は世界で一番大きな博物館そのもの。博物館は、世界的には紛争や国際的な課題をとらまえる場所としても認識されており、言葉だけではなく目に見える形で見せることが大事。

### 【基本計画】

- これまでの国際博覧会において、新たな才能を育成するための挑戦の機会が確保されてきたことをふまえ、 日本館のクリエーションにおいても、若い世代のクリエイター等の参加を積極的に推進する。また、子どもたちの 社会教育の場として、子どもたちの参加・体験を重視する。
- 世代や国籍を問わず、全ての来場者に未来社会へのアクションを促す。日本館の体験を経た人々、とりわけ **子どもや若者をはじめとする「万博チルドレン」**が、いのち輝く未来社会のデザインをリードするきっかけとする。

展示及びコミュニケーション施策において、子どもたちの参加・体験を意識した企画を検討。その際、子供たちが 社会課題を認識し、自身が課題にどう向き合っていくか考える契機となるような参加形態を追求する。 今後、企画を具体化していく中で若い世代のクリエイターの参画機会を設けていく。

### 6. その他検討状況

### 【検討会議におけるご意見】

- 周囲のパビリオンとの調和については留意する必要。
- 今サステナブルな社会が作りにくい事の原因の1つは、お互いに情報を隠していたりうまく伝わらないこと。万博全体で考えても、パビリオン同士で情報共有できていなければ、そんな社会を作れるはずもないと思うので、連携、情報共有というのは早めにやった方が良い。
- イベント当日だけではなく、準備段階から人々が関われる仕組みを考えるべき。事前から日本館が出来上がっていく過程に関わることで、リアルで参加したいというモチベーションに繋がる。

### 【基本計画】



コミュニケーション施策の実施:2023年度~

● 日本館のコミュニケーションにおいては、2025年の大阪・関西万博の開催を待たず、会期前から日本館のコンセプトの浸透を図る。これにより質的に有意義な関係人口の増加を図る。同時に日本館コンセプトを自分たちのこととしてとらえるきっかけを作る。

(例)

- ・ 日本館コンセプトとともに、 そこに至るプロセスをコンテンツとして広く公開する。
- ・ 日本館や大阪・関西万博がどうあるべきか考える市民参加型ワークショップを全国各地で実施する。
- ・ 日本館のコンセプトと親和的な取り組みを行う企業・団体の取り組みとのコラボレーションを通じた施策を実施する。

協会がパビリオン間の情報共有を目的としたパビリオン連携会議を設置、2022年12月に初会合。 今後の密な検討状況の共有と催事等での協力の可能性の追求を呼びかけ。コミュニケーション施策の一環として 万博未来編集部ローカルツアーを実施。2023年度以降、コミュニケーション施策を拡充していく。

### 【参考】万博未来編集部ローカルツアー

● 日本館や大阪・関西万博がどうあるべきか、また地域の未来を考える市民参加型の取り組みとして、昨年度に引き続き、若年層を対象に「万博未来編集部ローカルツアー2022」を開催。 全国的な機運醸成につなげていく。



### ■昨年度実施概要

2021年12月~2022年2月にかけて、大阪・奈良・兵庫・和歌山・京都・滋賀の2府4県でワークショップを実施。

#### (内容)

- ①エリア編集長(ローカルプレイヤー)×日本館 基本構想クリエイターによるトークセッション
- ②「実現したい未来の街」を考えるワークショップ

⇒20代を中心に、子供や学生の参加も多く、若年層の巻き込みに成功。万博への関心層の拡大につながった。

### ■今年度実施予定

〇栃木会場(実施済)

日時:12/13(火) 18:30~21:00 於:チャウス

エリア編集長:宮本吾一氏

#### 〇群馬会場

日時:2023年1月31日(火)18:30~21:00於:群馬県庁32階

エリア編集長:中台澄之氏

#### 〇埼玉会場

日時:2023年2月23日(木・祝)13:00~15:30 於:シェアアトリエつなぐば

エリア編集長: 松村美乃里氏

### 7. 日本館のスケジュール

- 「2025年大阪・関西万博アクションプランver. 3」に、日本館出展事業を掲載・改訂。 また、**検討会議後速やかに、建築工事の公告を実施**予定。
- 今後については、①建築工事の着実な実施、②展示内容の検討推進・展示工事の着手、 ③コミュニケーション施策の検討・バーチャル日本館実装に向けた開発、④運営及び行催事 計画の策定を遂行。

